

NHKアートが「InterBEEで「北斎ジャポニズムの世界観」を上映

北斎を8Kリアルタイム3DCG化

NHKアートは、InterBEE FORUM 2016の映像シンポジウム「進化する4K・8K映像コンテンツへの挑戦」ハリウッド・日本におけるチャレンジ」の開催に合わせてフォーラム会場で、8Kリアルタイム3DCGによる超臨場感空間「北斎ジャポニズムの世界観」を上映した。

この「北斎ジャポニズムの世界観」は、昨年11月にSIGGRAPH 2015の主催者に企画を打診したところ、特別招待講演として上映および講演を行うことになった。最終的に上映・講演が決定したが、約1カ月前であったが、そこからプロジェクトを立ち上げ、講演まで実際の作業期間は約2週間ほどで制作した。この元となった北斎の絵は長野・小布施の北斎館が所蔵しており、8Kリアルタイム3DCG化について許可を得て制作した。北斎館では講演前にデモを行い、最終的にはチャレンジするのを認めてもらった。北斎の絵は長野・小布施の北斎館が所蔵しており、8Kリアルタイム3DCG化について許可を得て制作した。北斎館では講演前にデモを行い、最終的にはチャレンジするのを認めてもらった。

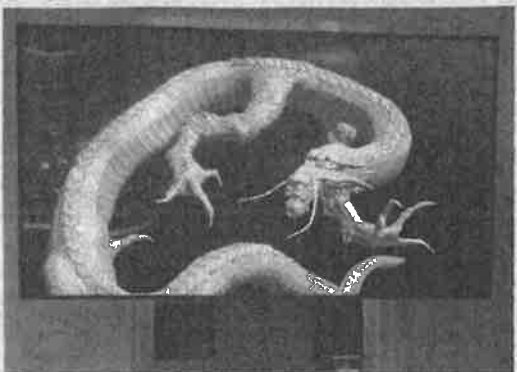
Unityを用いて約2週間で作成

ただ2Dのフラットな色調を維持することに配慮しながら作業をしている。リアルタイムCGの制作にはUnityを用いており、Unity用プログラム開発には、東京電機大学の高橋時市郎教授（ビジュアルコンピュータ研究室）の協力を得ている。アニメーションは、あまり凝ったものが多くないと、作業時間が増え、容量も増加

するため、できるだけシンプルにして、ダイナミックな動きを見せるような方向で制作した。

SIGGRAPH Asia 2015では、シャープおよびエグザジャパンの協力を得て、シャープ製8K/HDR対応85型液晶ディスプレイで上映された。音響は16chを用意している。「SIGGRAPH Asia 2015でも多くの方にご覧いただき、大変好評でした。大画面で8Kをじっくり見るということはありません。音についても16chを設置して上映したため、映像の空間と音の空間がうまくマッチして相乗効果が生まれたのではないのでしょうか（NHKアートデジタルデザイン部電子映像開発技術主幹坂本敏幸氏）。

NHKアートでは、ハンディカメラによるVRなど様々な取り組みを行っている。今後も同社で培った技術を生かして、新感覚の映像表現を追及してまいります。



プロジェクトメンバー（後列右から3人目が坂本氏）

InterBEEでの上映の様相